

案内役より、新建への期待を込めて

間野 博（福島大学）

鎌田さんから新建の浪江視察の依頼があった時、即、引き受けたのは、第一に、こうした依頼に応えることは、福島で避難指示区域の復興支援に張り付いているものとしての重要な義務だと日ごろ思っているからです。しかも、国・東電に批判的な団体が今後の福島復興に対する戦略を検討するためだということだったので、なおさら、力が入りました。それで、「1日だけでは十分理解してもらえないから、2日にできませんか」と提案したのです。

原発立地町の双葉町と、隣接町で3区域に分断された浪江町に主に張り付いていて、避難指示区域全体の実情も、ある程度理解できていると思うので、それを踏まえて「視察計画」を立てました。

津波被災地と違い、原発事故被災地は見ただけでは分かりません。「物」より「事」が重要なので、「見る」だけではなく「聞く」場を設けることを重視しました。

それも、複雑で深刻な事態を理解してもらうためには、一方からの話だけではなく、反対の側の話も聞いてもらう必要があると思い、役場の説明は軽く（公表資料でかなり分かる）、帰還推進派と、帰還批判派（疑問視派）から話を聞いてもらうようにしました。後者は、行政の支援をしている私を常日頃から批判している人です。

宿泊先は今年、東京生まれの息子さんが親父の夢に忠えて一緒に営業を再開した民宿兼居酒屋です。仮設商業施設「まち・なみ・まるしえ」も10店舗の内、多くは意気を感じて金勘定抜きで始めた人たちです。

これらに加えて、幾世橋の災害公営住宅・福島再生賃貸住宅、こども園・小中学校、一時滞在施設「いこいの村」など、帰還に向けた復興の動きを見てもらいました。

一方、中心市街地の被災状況と解体除染の現場、イノシン侵入被害家屋、津波被災地と震災遺産候補の請戸小学校、7.2mの防潮堤、仮設焼却施設、福島第一原発の遠望など、復興への多くの壁も実感してもらえたかと思います。

ただ、やはり、時間が足りず、除染廃棄物仮置き場、汚染牛を飼う吉沢牧場、水稻実証栽培地などなど、残念ながら見してもらえませんでした。

私は、放射線汚染地域の復興は、長い目で見なければならぬと思っています。

放射線量が1mSv/年になるまで、福島第一原発の廃炉が無事終了するまで、福島第二原発の廃炉が終了するまで、中間貯蔵施設の除染廃棄物の最終処分が終わるまで、には、数十年かかります。

避難指示が解除されたまちの復興も、住民の復興も数十年かかると見なければならぬのではないのでしょうか。

6年半の避難生活は、帰還しても「0」から暮らしを再構築することを強いるのです。帰還困難区域から涙ながら避難先に移住した人が「戻る人の方が勇気が要るし、大変だ」と言ったのを思い出します。

6年半、人が住んでいなかったまちも「0」からの出発です。小学校が1教室の「単級学校」から数教室の「複式学級」に、さらに各学年1教室となり、特別教室も増え、学校施設は、だんだん大きく多機能なものが必要になるように、まちも少しずつ住む人が増えていく中で、「アウフヘーベン」していかなければならないと思います。

そのためには、長期ロードマップ型の復興計画が必要だと思っています。国は、2020年でかたをつけたいようですが、とんでもないことです。

新建に望むことは、この国の方針に対する対案を示し、それを広く訴えていくことです。それに向けて、今回の視察が少しでも役立てば望外の幸せです。

おわりに

2017年9月25日正午前、間野博先生と新建築家技術者集団視察団の合計9人は、JR福島駅に集合し、2日間の視察旅行が始まりました。

9人の視察団は2台の車に分乗し、まず二本松市に向かいました。二本松市は、浪江町が避難先にしたところで、現在も役場機能の一部が同市内におかれています。市内の石倉復興公営住宅団地と戸建て団地、安達仮設住宅団地を視察したあと、浪江町商工会二本松事務所を訪問して同会長原田雄一氏へのヒアリングを行いました。原田氏は町外コミュニティづくりを進めている方です。商工会事務所を辞した後、浪江町でもっとも線量の高かった下津島地区を通過して、その日のうちに浪江町に入りました。

宿泊先は民宿「新妻荘」。「食事処 いふ」を併設する帰還第一号飲食店です。夜、町役場の方も顔を出して下さり、新妻さん父息子による料理で懇親会をもちました。

翌26日は、行政区長会会長佐藤秀三氏の店を訪問、帰還促進の立場から話を伺ったあと、建物の解体も町民の帰還もすまない中心市街地を案内してもらい、イノシシの被害を受けた住宅も視察しました。昼には、町役場敷地内に作られた仮設商業施設「まち・なみ・まるしえ」に移動して食事をとったあと、町役場で企画財政課野村佳祐氏から浪江町の復興についてレクチャを受けました。その後、幾世橋復興公営住宅、福島再生住宅（雇用促進住宅を改修）、いこいの村なみえを見学しました。

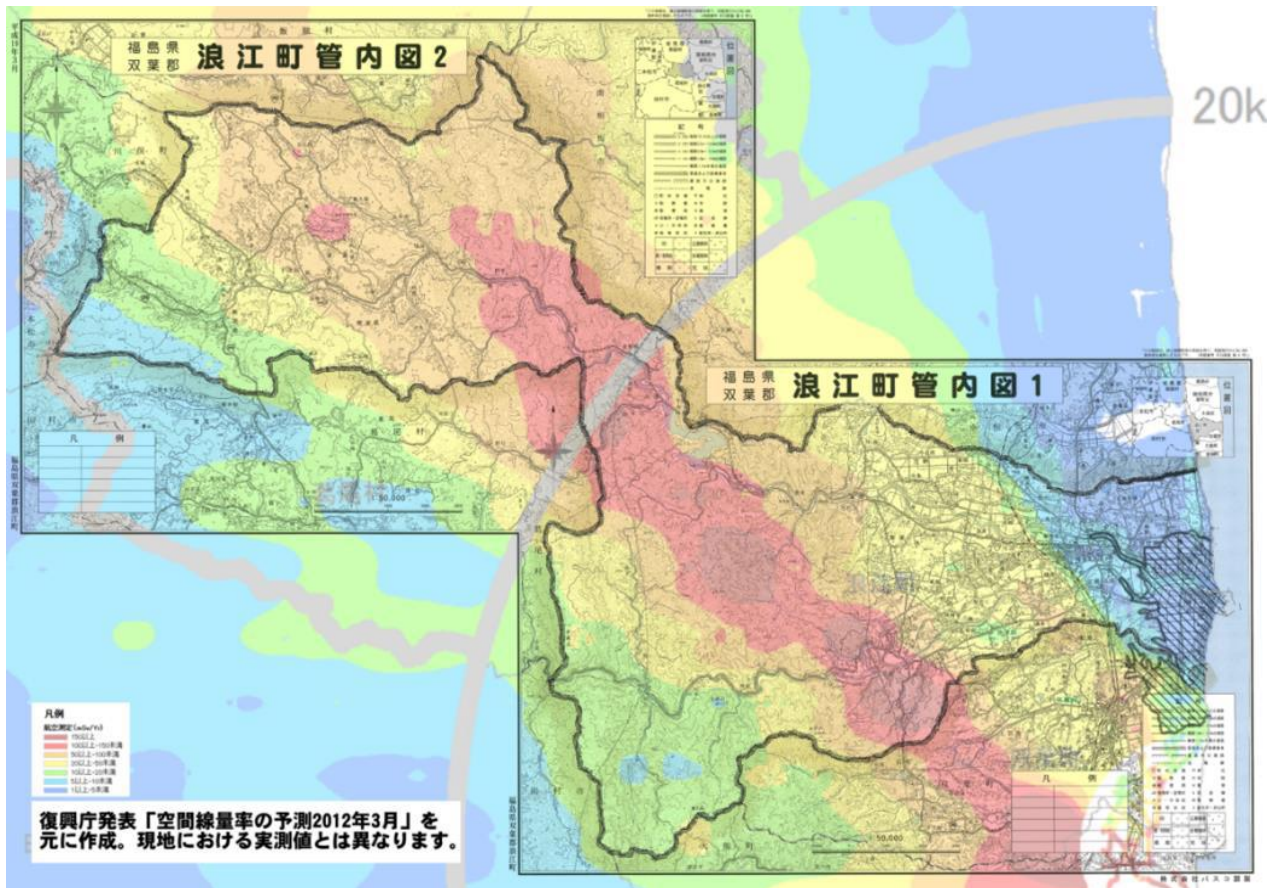
夕刻迫るなか、津波被害を受けた請戸地区へ車を走らせ、大平山霊園、請戸小学校、復興公園用地、仮設焼却施設などを視察しました。視察団は、薄暮れのなか、海岸線の先の福島第一原発の建物群のシルエットを見つめ、この原発事故がもたらしたものの大きさを噛みしめました。

水戸に帰る乾は、一足さきにJR常磐線浪江駅から不通区間を代行するバスに乗り込み、残る8人はJR福島駅まで移動、ここで視察団は解散しました。

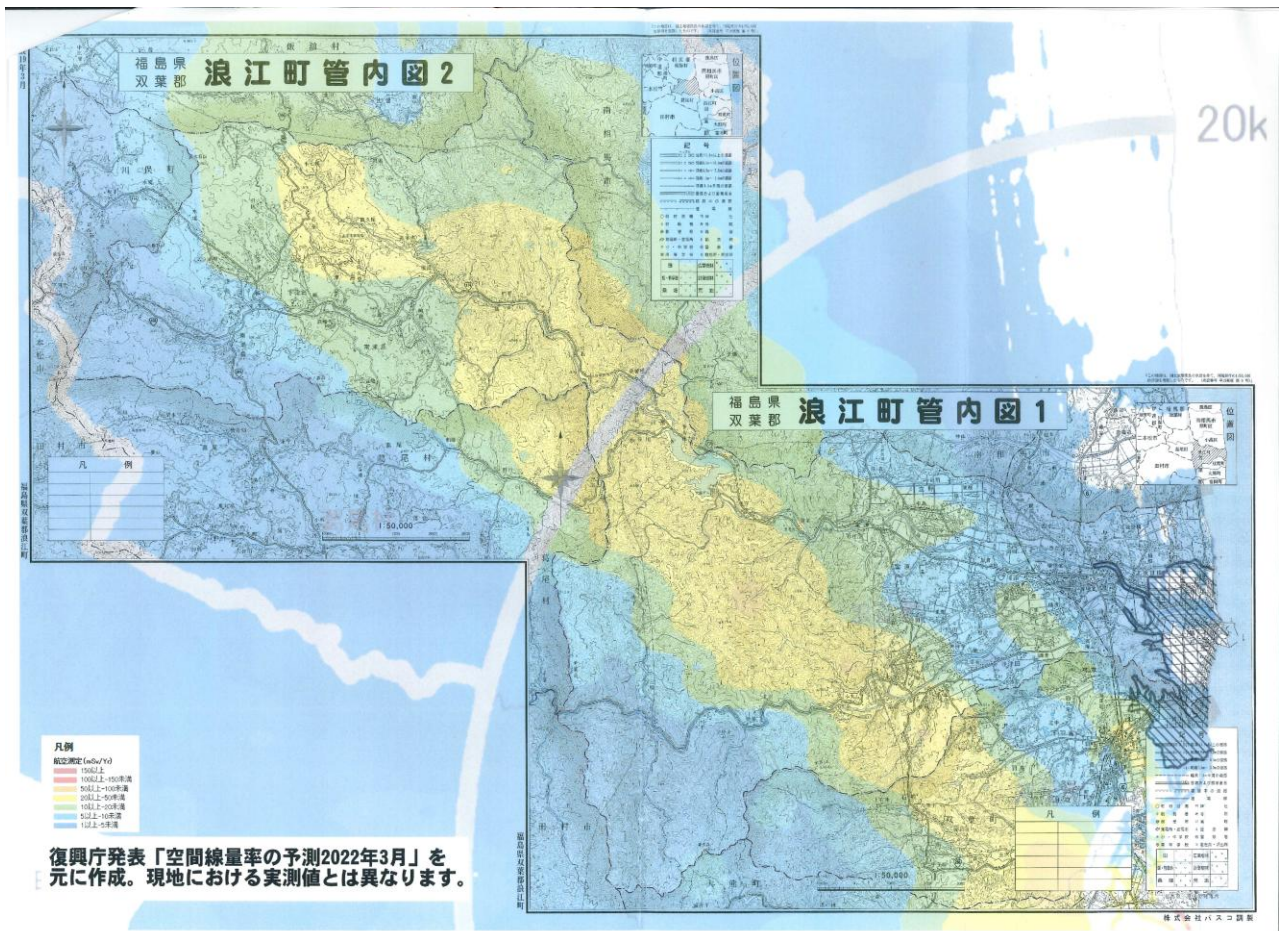
この視察に協力してくださったのは、視察の計画とコーディネート、案内を引き受けてくださった間野博先生（福島大学）、金山信一氏（浪江町まちづくり整備課）、小林直樹氏（浪江町産業振興課）、佐藤秀三氏（行政区長会会長）、原田雄一氏（浪江商工会会長）、野村佳祐氏（浪江町企画財政課）です。改めて感謝いたします。

この視察に参加したのは、下記のメンバーです。カッコ内は本レポートの執筆箇所です。

浅井義泰	計画住宅研究会 / 建まち読者	(1.1 2.1 2.5 3.1)
新井隆夫	設計工房 住まいるラボ / 新建会員群馬支部	(3.2)
乾 康代	茨城大学 / 新建会員	(3.3 おわりに)
鎌田一夫	住まいの研究所 / 新建会員千葉支部	(はじめに 2.4 3.1)
佐藤隆雄	防災科学技術研究所 / 新建会員東京支部	(2.2)
久守一敏	全京都建築労働組合 / 新建会員京都支部	
三浦史郎	新建災害復興支援会議 / 新建会員東京支部	(1.2)
渡辺政利	一級建築士事務所くらしの環境改善 / 新建会員東京支部	(2.3)



空間線量図 (2012年)



空間線量図 (2022年予測)

浪江町 まちづくりイメージ鳥瞰図

まちづくり計画 整備段階一覧

- 【再開済み】
 - ・浪江町役場
 - ・双葉警察署浪江分庁舎
 - ・浪江消防署(仮庁舎)
(サンシャイン浪江にて再開)
- 【完成済み】・・・工事完了または供用開始
 - ・町営大平山霊園
 - ・コミュニティ広場整備
 - ・地域スポーツセンター
 - ・水稻の実証栽培
 - ・仮設商業施設
 - ・取水場 24時間モニタリング
小野田 / 谷津田 / 苧野 / 大堀
- 【工事段階】・・・工事中または設計が終了し工事着手直前
 - ・駅前広場
 - ・浪江診療所
 - ・福島再生賃貸住宅
(雇用促進住宅の大規模改修)
 - ・請戸漁港
 - ・酒田アンダーパス
 - ・川添踏切拡幅整備
 - ・海岸堤防
 - ・幾世橋団地(防災集団移転・災害公営住宅)
 - ・浪江東中学校改修(小学校・中学校)
 - ・認定子ども園
 - ・いこいの村なみえ(一時滞在施設)
- 【実施設計段階】・・・工事前の詳細な設計段階
 - ・大平山団地(防災集団移転・災害公営住宅)
 - ・水産業共同利用施設(市場・漁具倉庫など)
 - ・防災林
 - ・浪江消防署(新庁舎)
 - ・雇用創出エリア 藤橋地区
- 【基本設計段階】・・・配置・規模などを決定するための設計段階
 - ・交流・情報発信拠点
 - ・雇用創出エリア 北産業団地 / 南産業団地
 - ・北棚塩地区海岸整備
 - ・掃部関樋門
 - ・棚塩排水機場
- 【構想段階】・・・場所や規模・事業手法などを検討中
 - ・水産流通加工団地
 - ・鮭築場
 - ・農業拠点施設
 - ・花卉栽培
 - ・スポーツ健康増進エリア
 - ・先人の丘
 - ・中浜防潮樋門
 - ・復興祈念公園候補エリア(国・県事業)
 - ・東北電力用地(イノベーション・コースト構想に基づく活用イメージ)





「浪江町復興計画（第二次）」より